

旅の空、時々 地の芋

ーベトナム編ー

東京農業大学国際食料情報学部 夏秋 啓子

私は、熱帯や亜熱帯に発生する植物ウイルスの研究をしている。バナナやパイナップルなどの果実、あるいはトマトやメロンなどが対象で、実のところ、イモ類の専門家というわけではない。しかし、毎年数回、ベトナム、インドネシア、ミャンマーなど東南アジアの国々へ調査旅行に行くと、やはり目にとまるのはおいしそうな食べ物。その中でイモ類は、地味だけどしっかりとその存在を市場でアピールしているようだ。私だけではない。私の同僚もまた、いろいろな研究のために訪れる熱帯の国々でイモ類に出会っている。熱帯で研究する私たちの、そのようなイモとの出会いを、何回かに分けて連載させていただきたい。

・米のくに、ベトナム

ベトナム旅行はここ数年、ちょっとしたブームだ。昔のサイゴン、今ではホーチミンシティの周辺、あるいは、古都フエ、それから北へ足を伸ばして首都ハノイをめぐる観光ツアーでこの国を訪れる日本人の数は30万人近いという。米の粉でつく

った麺フォーはスープも温かくおいしいし、ライスペーパーで巻いた生春巻きは中に入っている青菜や海老などが透けて見える繊細さが好ましい。また、おなじく米の粉でつくったお好み焼きバインセオはエキゾチックな野菜がたっぷり入っていてダイナミックだし。



上. 図1. ジャガイモの培養苗
下. 図2. 苗の植付



地元のお酒ネ
ップモイやル
アモイもま
た、米の酒で
ある。そして
何より、メコ
ンデルタに広
がる広大な水
田地帯では1
年に2回以上

の収穫が可能で、今やベトナムはタイに次ぐ米の輸出国となっている。こうしてみると、ベトナムは米の国といえることができるようだ。しかし、ベトナムでも何種類かのイモが作られて、庶民の生活をはっきりと支えているのが見逃せない。

・培養苗を用いてジャガイモ生産

ベトナムで一番生産が多いのはサツマイモ。そして、2番目はジャガイモである。現在約34,000haで365,000MT（トン）のジャガイモが生産されている（FAO 2004）。ジャガイモは19世紀の後半に、当時、ベトナムを植民地としていたフランス人が栽培をはじめたとされている。ベトナム語ではジャガイモのことを、Khoai tayと呼ぶが、これはつまりのところ外国のイモという意味らしい。ジャガイモの生産は、南部よりは、中部、北部で多い。

ベトナム中部にあるダラト周辺はベトナムの避暑地ともいえる環境で、ニンジン、キャベツをはじめとする各種の

野菜や花が精力的に生産されている畑作地帯である。ジャガイモの生産も盛んな地域だ。アジアらしくない涼しくからりとした気候と、強い紫外線が感じられる澄んだ空気、そして村を取り囲む松林が印象に残る。ここには、ダラト食用作物研究所があつてジャガイモの研究をおこなっており、真正種子生産や培養苗の生産についても取り組んでいるという。近隣の農家の畑を訪れるとちょうど、種イモではなくジャガイモ苗を1本1本手で植え付けている最中であつた（図1、2）。さらに、別の機会にはジャガイモの培養苗を作るというビジネスを展開する農家を訪問した（図3）。培養技術は農業試験場で修得したという。種イモから出た芽を切り出して培地に植えてカルスを作り、それをさらに切つて試験管苗を作る。この苗を徐々に馴化し、最後には、バナナの葉を巻き楊枝で止めてつくったポットの中に移植する。その後さらに、この苗の上部を切つて挿し芽で増殖し、結局、試験管苗1本から15本以上の苗が取れる。苗1本を1円程度で、しかし1年に100万本を売るといふから、上々のビジネスである。



図4．ネズミよけのビニールで囲った畑

この苗からの1作目は、生育は良いがイモは小さい。しかし、大きいイモの割合は段々増えて、3作目にはほとんどの苗から大型のイモが取れるという。とはいえ、4作以上続けようとすると再び病気などによって収穫が激減するため、苗を購入更新する必要があるとのことであった。ドイモイ政策で、個人の才覚が生かせるようになったベトナム。このような起業家も大活躍だ。

・有効利用される農地

一方、ハノイの近郊、レッドリバー（紅河）のデルタ地帯でも、ジャガイモは作られている。ここでは、ドンスアンという村でスアンさんの家を訪ねた。彼は両親と妻、子供3人そして妹とともに暮らしている。牛2頭、豚4頭を飼い、そして、鶏も庭を歩き回っている、どこかしら懐かしさを感じる庭先である。1年に米を2回作り、その後、冬作としてサツマイモ、トウモロコシあるいはジャガイモを作るという。種イモは近隣の村で買ってきてこれを植えている。ベトナム産の品種はVT2とかKT3といった名前の方が良く使われているが、この他にも外国由来の品種、例えば中国由来のHong Ha、ヨーロッパ由来のNicolaやDiamondといった品種も知られている。収穫したジャガイモは1kgあたり約2000ドンで売ると言うが、他の作物と比べても悪くない収入のようだ。村を歩けば、トマト、長ネギ、キャベツ、などが小さい畑で次々と植えられているのを見ることができ



図5. 市場で売られているイモ
手前右 タロイモ、同左 キャッサバ

る。ネズミを防ぐために畑の周りをビニールで囲っているのも珍しい光景だった（図4）。0.3haしかないという狭い土地をフル活用し、日本人から考えるとかなりの大家族を養っているスアンさん。痩せているけれど、一家の主という自信がうかがわれた。

・市民生活に密着したイモ

さて、村を離れてハノイの町に戻ると、ここでは首都らしい活気が見られる。高いビルも建ち、自動車の数も多い。村の暮らしとは大違いだ。しかし、旧市街へ入れば道端に様々の小店が並んで、それぞれの商売に余念がない。市場に行けば、ジャガイモ、サツマイモKhoai langだけでなく、キャッサバKhoai miやタロイモKhoai monも売られている（図5）。これらもちろん、大切なイモ類ということになる。サツマイモは米の不足していた戦争中は御飯がわりに、そして今は、主として間食のように食べられている。キャッサバはそのまま食べるだけでなく、粉にして加工したり、酒造りにも使われることが多い。町を歩くと天秤棒をかつぐ物売りによく

会う。天秤棒で商売しているのは、たいてい
がノンという帽子をかぶったおばさんたち。
花売り、野菜売り、オレンジやバナナなどの
果物売り、バナナの葉で包んだゴマ団子売り、
揚げもち売り、と際限がない。そして、その

中にはちゃんと焼き芋（サツマイモ）屋さん
もいるのだ。日本の焼き芋屋さんの屋台とス
タイルは違うけれど、そしてそのサツマイモ
はやや細目だけれど、その甘さに変りはない
ようだ。



ベトナム（ベトナム社会主義共和国）はイ
ンドシナ半島の東半分を占め、北緯 $8^{\circ} 30'$
から $23^{\circ} 24'$ に位置する南北に長い国です。
総面積は 33.2 万 km^2 で、日本 (37.8 万 km^2) よりや
や狭く、人口は約 $7,800$ 万（ 2000 年）で、う
ち首都ハノイは 100 万余（周辺人口を加え
ると 300 万余）、ホーチミン市 300 万余、人口密
度は高く、 236 人/ km^2 となっています。

全国土が熱帯に位置していますが、北部は
亜熱帯性気候で冬は比較的涼しく、南部は熱
帯性気候で年間を通して高温です。雨季と乾
季がはっきりしていて、年によって異なりま
すが、だいたい雨は 5 月から 9 月にかけて集
中して降ります。首都ハノイの平均気温は 1

月 16.7°C 、 7
月 28.9°C 、年
間降水量は
 1830 mm
（ 2000 年）と
なっていま
す。

土地の利用
状況について
は、農地は約
 700 万ヘク
ター（以下同）

で全国土の 21% 、牧場、牧草地 33 万、 1% 、
森林は意外と少なく 965 万で 29% 、その他
 $1,559$ 万で、部分的には農耕が行われている
ものの、ほとんどは不毛の山地です。

国民の多くが農業に従事し、その数は約
 $2,600$ 万人、農業従事者 1 人あたり耕地は、
他の東南アジア諸国同様狭く、 0.3 ヘクタ
ールとなっています。主な農畜産物はコメ
 $3,139$ 万トン（ 99 年、以下同、全世界生産量
の 5.3% で 4 位）、トウモロコシ 175 、ジャガ
イモ 37 、サツマイモ 175 （ 1.3% 、 4 位）、キ
ャツサバ 181 、ココナツ 113 （ 2.4% 、 7 位）、
コーヒー豆 49 （ 7.5% 、 3 位）、茶 6.2 （ 2.2% 、
 8 位）、天然ゴム 22 （ 3.3% 、 6 位）、ウシ 406
万頭、ブタ $1,889$ （ 2.1% 、 6 位）等となっ
ています。

年間を通して野菜、果物が生産され、また
海産物が豊富なため、これらがふんだんに用
いられる日々の食卓には、豊かな変化があり
ます。ベトナム料理に欠かせないものにニョ
クマムがありますが、これは生魚を醗酵させ
たしぼり汁（魚醤）で、秋田県の「しょつ
つる」によく似ていて、多くの料理にダシとし
て用い、また卓上調味料として風味をつける
のにも使われます。

（編集部）

